

# 社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行 に共通して必要な能力等(基礎的・汎用的能力)について (検討用資料)

## <目次>

1. 諮問理由説明及び審議経過報告(抜粋)	1
2. 「キャリア」の考え方	2
3. 産業界等から提言されている主な諸能力	3
4. 学校におけるキャリア教育において育成を目指している能力例	8
5. これまでに提言された各種能力の特徴と課題	9
6. 今回の検討のポイント	10
7. 「社会・職業への円滑な移行のために求められる力」の内容	11
8. 「基礎的・汎用的能力」の検討のポイント	12
9. 「基礎的・汎用的能力」の内容(案)	13
10. 「生きる力」「学士力」との関係	18
11. 各教育段階に即した能力育成について(案)	19

# 1. 諮問理由説明及び審議経過報告(抜粋)

## 諮問理由説明(抜粋)

「社会・職業への円滑な移行のために学生・生徒に求められる基礎的・汎用的な能力について、初等中等教育、高等教育それぞれの段階に即して明らかにする」

## 審議経過報告(抜粋)

### V. 1. (1)社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に共通して必要な能力等の明確化

これまでの審議における主な意見

- 能力(態度・行動様式)：コミュニケーション能力、粘り強さ、課題発見・課題解決能力、変化への対応力、協調性、共に社会をつくる力、健全な批判力、段取りを組んで取り組む力 など
- 知識：労働者としての権利・義務 など
- 価値観：勤労観、職業観、倫理観 など

「生きる力」(及びその育成を理念とする学習指導要領)や「学士力」との整合性を踏まえつつ、4領域・8能力等を含めて全体的な整理を行い、内容を具体化していくことが必要である。

初等中等教育と高等教育段階で、教育課程の編成、評価等のシステムやアプローチが異なる中で、どのように相互の円滑な接続を図り、どのような能力等をどのようにはぐくみ、それを保証していくのかという観点から、議論を深めていくことが求められる。

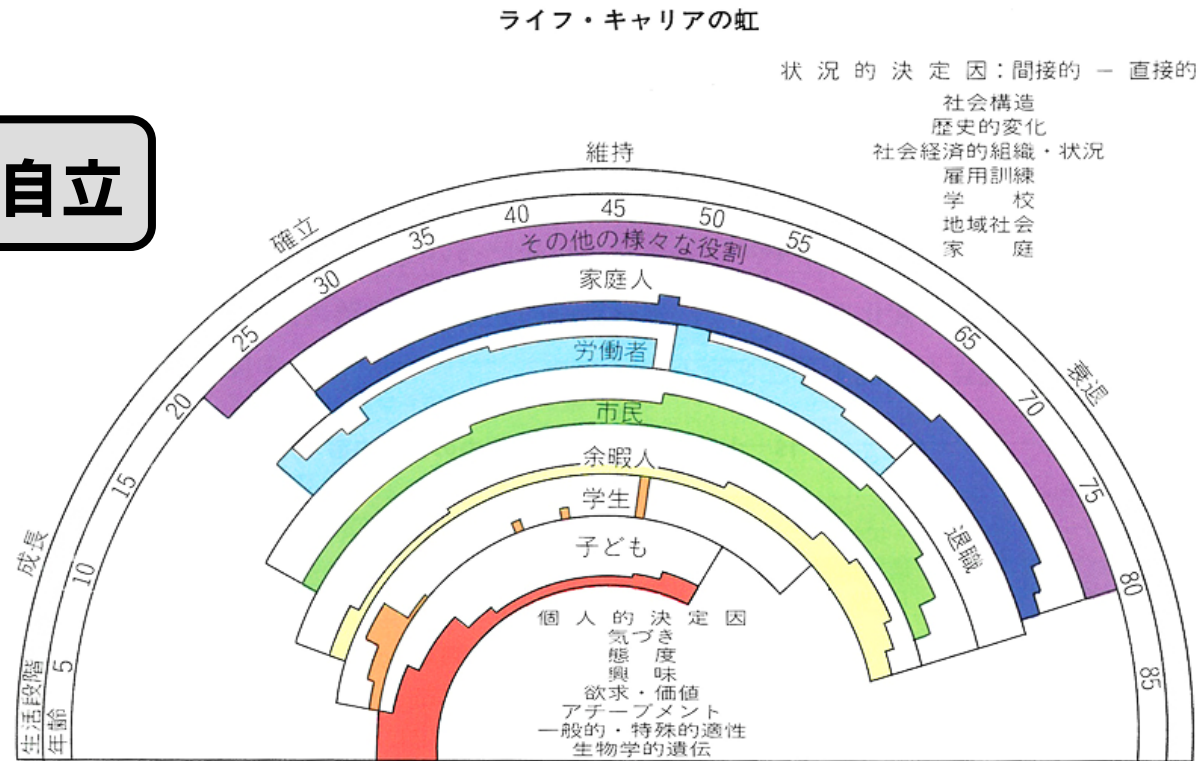
当部会の審議においては、すべての学生・生徒等の社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に最低限必要な能力等として議論していくことが適当である。

## 2. 「キャリア」の考え方

- 人は、社会における自己の立場に応じた様々な役割（ライフ・ロール）を果たしつつ、自分らしい生き方を展望し、実現していくもの。
- 多様なライフ・ロールの中で、「働くこと」は、広く捉えれば「自分の力を発揮して社会（あるいはそれを構成する個人や集団）に貢献すること」だが、社会・職業への円滑な移行という課題を踏まえ、その中の「仕事<sup>(※)</sup>に就くこと」に焦点を当てる。



### 社会的・職業的な自立



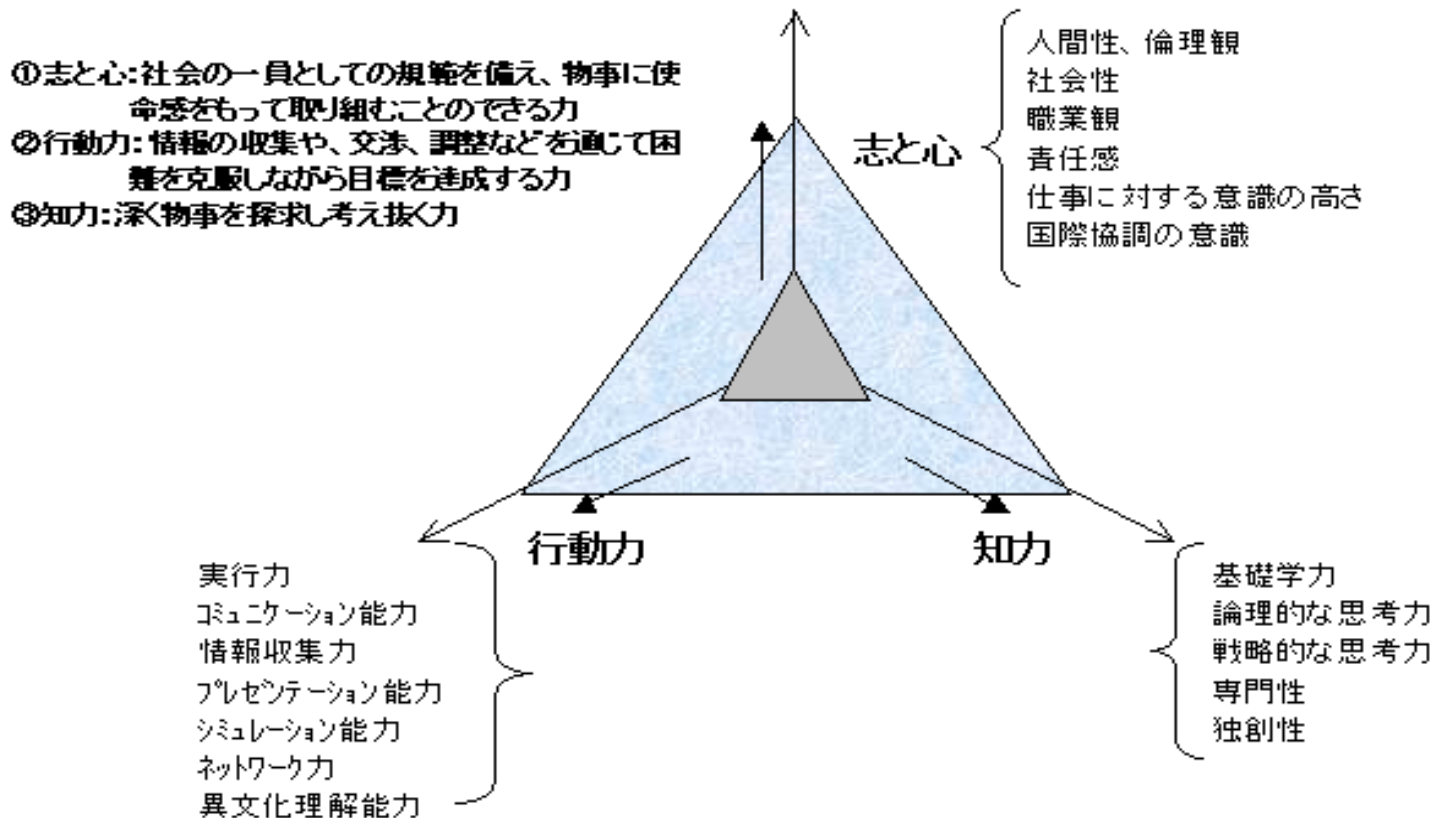
—ある男性のライフ・キャリア— 「22歳に大学を卒業し、すぐに就職。26歳で結婚して、27歳で1児の父親となる。47歳の時に1年間社外研修。57歳で両親を失い、67歳で退職、78歳の時妻を失い81歳で生涯を終えた。」  
D.E. スーパーはこのようなライフ・キャリアを概念図化した。

※ ここでいう「仕事」は、企業等への就職に限らず、ある程度、経済的な基盤を築くことができることを前提に、幅広くとらえていくことが必要

# 3. 産業界等から提言されている主な諸能力

## (1) (社)日本経済団体連合会において提言されている「3つの力」

産業界が求めている人材が備えている必要があると考えている3つの力。この力は、どのような分野に進もうと、それぞれ最低限の水準が満足されていなければならないと考え、その上で、これら3つの力がどのようなバランスを取るかが各人の個性であり、その多様性が社会の活力をもたらすことにつながると定義。産業界は教育界にこの3つの力を伸長させることを期待。



## (2) 企業が新規採用に当たって重視する能力等

### (社)経済同友会の調査

#### ○新卒の採用選考の際、特に重視する能力

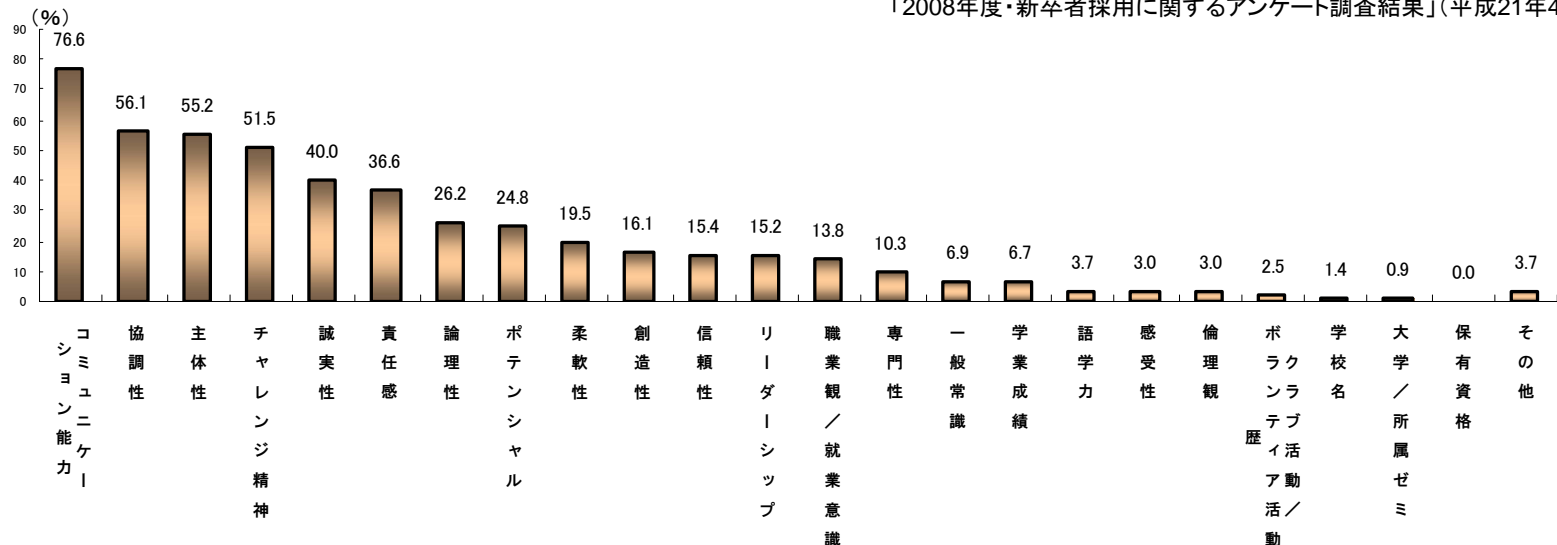
資料：(社)経済同友会  
「企業の採用と教育に関するアンケート調査」(平成20年5月)

	大学卒		大学院卒		短期大学卒		専門学校卒	
	能力	割合	能力	割合	能力	割合	能力	割合
第1位	熱意・意欲	77.2%	熱意・意欲	70.5%	熱意・意欲	78.6%	熱意・意欲	77.0%
第2位	行動力・実行力	49.5%	行動力・実行力	45.3%	協調性	59.3%	協調性	59.3%
第3位	協調性	43.4%	協調性	38.2%	行動力・実行力	38.6%	行動力・実行力	37.8%
第4位	論理的思考力	21.7%	専門知識・研究内容	28.0%	表現力・プレゼンテーション能力	17.2%	専門知識・研究内容	23.0%
第5位	問題解決力	18.1%	論理的思考力	23.6%	常に新しい知識・能力を学ぼうとする力	16.6%	表現力・プレゼンテーション能力	17.0%

### (社)日本経済団体連合会の調査

#### ○新卒者採用の選考に当たっての重視点

資料：(社)日本経済団体連合会  
「2008年度・新卒者採用に関するアンケート調査結果」(平成21年4月)



### (3) 人間力

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

※ 次のような要素を総合的にバランスよく高めることが、人間力を高めることと定義

構成要素	内容
知的能力的要素	「基礎学力(主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力)」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」など
社会・対人関係力的要素	「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力」など
自己制御的要素	上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」など

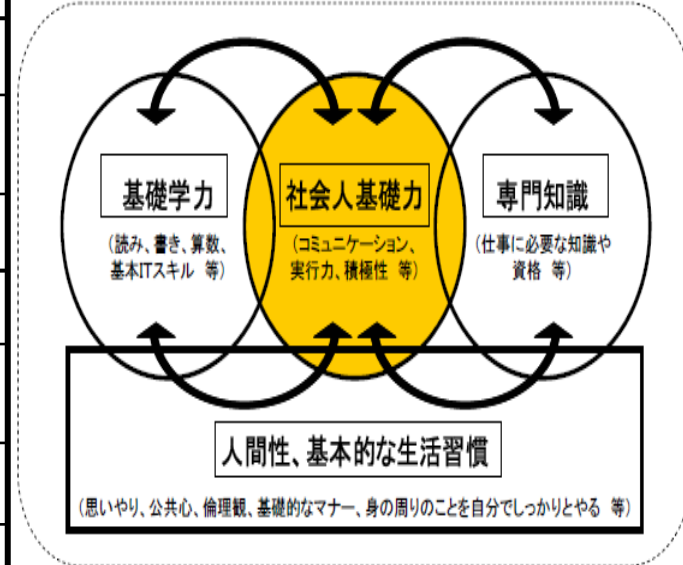
## (4) 社会人基礎力

組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力

分類	能力要素	内容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力 例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 例) 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。
	実行力	目的を設定し確実に行動する力 例) 言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。
	創造力	新しい価値を生み出す力 例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 例) 相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力 例) 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力 例) 状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力 例) ストレスを感じるがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。

(職場や地域社会で活躍する上で必要となる能力について)

※それぞれの能力の育成については、小・中学校段階では基礎学力が重視され、高等教育段階では専門知識が重視されるなど、成長段階に応じた対応が必要となる。



資料: 経済産業省「社会人基礎力に関する研究会-中間取りまとめ-」(平成18年1月)

## (5) 就職基礎能力

企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力

事務・営業の職種について、就職基礎能力のそれぞれの能力の具体的な内容についてレベル分け(=基礎(高校卒業レベル)、応用(大学卒業レベル))を行い、「就職基礎能力修得の目安」として整理

能力	要素	内容
コミュニケーション能力	意思疎通	自己主張と傾聴のバランスを取りながら効果的に意思疎通ができる
	協調性	双方の主張の調整を図り調和を図ることができる
	自己表現力	状況にあった訴求力のあるプレゼンができる
職業人意識	責任感	社会の一員として役割の自覚を持っている
	向上心・探求心	働くことへの関心や意欲を持ちながら進んで課題を見つけ、レベルアップを目指すことができる
	職業意識・勤労観	職業や勤労に対する広範な見方・考え方をもち、意欲や態度等で示すことができる
基礎学力	読み書き	職務遂行に必要な文書知識を持っている
	計算・数学的思考	職務遂行に必要な数学的な思考方法や知識を持っている
	社会人常識	社会人として必要な常識を持っている
ビジネスマナー	基本的なマナー	集団社会に必要な気持ちの良い受け答えやマナーの良い対応ができる
資格取得	情報技術関係	社会人として必要なコンピュータの基本機能の操作や情報処理・活用ができる
	経理・財務関係	社会人として必要な経理・会計、財務に関する知識を持ち活用ができる
	語学力関係	社会人として必要な英語に関する知識を持ち活用ができる



# 4. 学校におけるキャリア教育において育成を目指している能力例

## ○ キャリア発達にかかわる諸能力(例)

児童生徒が将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、資質

領域	領域説明	能力説明
能力 人間 関係 形成	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報 活用 能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
将来 設計 能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思 決定 能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

## 5. これまでに提言された各種能力の特徴と課題

### 「人間力」「社会人基礎力」「就職基礎能力」等の能力

#### 特徴

就職への移行期（主に若手社会人）という特定の時点に求められる基礎的な力に焦点を当て、それをわかりやすく提示。 など

#### 課題

特定の時点以降のキャリア形成という点には十分な関心が払われていない。 など

### 「キャリア発達にかかわる諸能力（例）」

#### 特徴

進路選択や進路決定を念頭に「育成」「発達」という観点が明確に提示されている。 など

#### 課題

この能力は「進路指導」を念頭に高等学校卒業までを想定しているため、産業界との共通言語となりにえていない。また、提示されている能力は例示にもかかわらず、現場では固定的にとらえている場合が多い。 など

## 6. 今回の検討のポイント

1. 「能力形成は人生全般にわたる」という視点を前提に、生涯にわたる一連のキャリアを支援していくという視点が重要であり、学校から産業界への円滑な移行とその後のキャリア形成を連続してとらえることが必要。
2. このため、今回は、教育界・産業界が『共通の言語』として双方の理解を図ることができる能力を提示することが必要。
3. その観点を踏まえ、人の生得的な能力ではなく、義務教育段階から高等教育段階までの学校教育において育成することができ、子ども・若者にとって夢や希望を持つことにつなげていけるような力は何かを検討。
4. これらの能力育成の重要性を、教員だけではなく、児童・生徒・学生、保護者を含めた学校教育関係者等に向けて情報発信していくことが必要。

## 7. 「社会・職業への円滑な移行のために求められる力」の内容

**「社会・職業への円滑な移行のために求められる力」は、  
「基礎的・汎用的能力」と「専門的能力」から構成**

### 基礎的・汎用的能力

社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力

（主として「キャリア教育」で育成すべき能力として想定）

### 専門的能力

特定の職業を遂行するために必要な専門的知識や技能等

（主として「職業教育」で育成すべき能力として想定）

## 8. 「基礎的・汎用的能力」の検討のポイント

- これまで提言されている各種能力で提示されている力などは様々な表現が使われているが、それぞれ共通する内容を既に含んでいる。
- このため、義務教育段階から高等教育段階までの学校教育の中で育成することを前提として、大きなまとまりで改めて整理すると次のように括ることが可能ではないか。

向上心・探求心、職業意識、勤労観・職業観など行動に移すための内面的なもの

読み書き、計算などの基礎知識や技能

論理的な思考力、創造力など

傾聴力、意思疎通、自己表現力、リーダーシップ、公共心、規範意識など他人や社会との関係で必要な力

忍耐力、主体性、ストレスコントロールなど、自己との関係で必要な力

課題発見力、計画力、実行力など様々な課題と向き合い対応する力

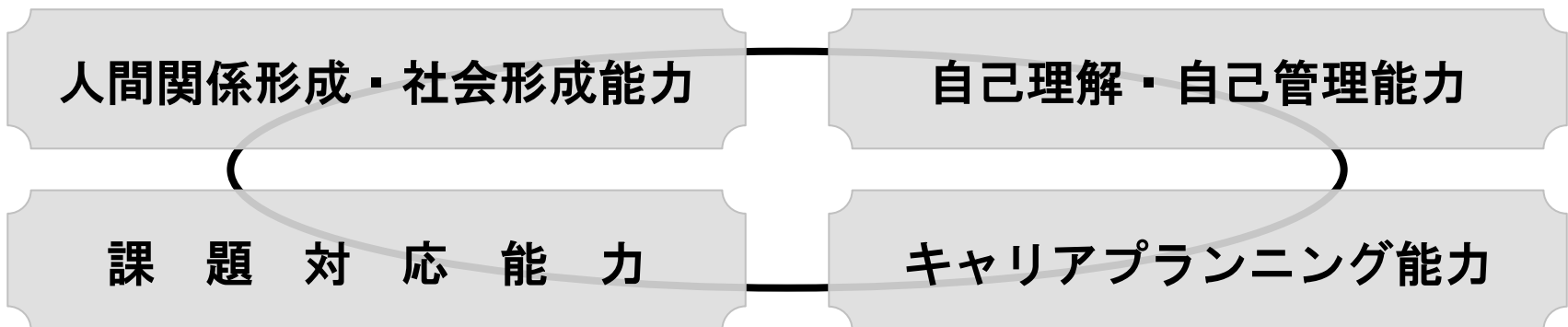
職業理解、職業に関する情報収集や探索、選択など自分のキャリアを形作る上で必要な力

## 9. 「基礎的・汎用的能力」の内容(案)

「基礎的・汎用的能力」のうち、基盤となるものとして次の3つを設定



この3つを基盤として、行動として表れ、評価が可能であるという観点から、次の4つの能力を設定。これらはそれぞれが独立しているものではなく、相互に関連・依存した関係。(このため、特に順序はないものとして理解。)



※ これらは包括的な能力概念であるので、これらを基本として、学校や地域の特色、専攻分野の特性や、子ども・若者の発達段階に応じた課題を踏まえた工夫を行い、各学校において具体の能力設定を行っていくもの。

# 人間関係形成・社会形成能力

## 内容案

**多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、他者と協力・協働して役割を果たしつつ社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力**

## 趣旨

社会とのかかわりの中で生活し、仕事をしていく上で基盤となる能力。特に価値の多様化が進む現代社会においては、様々な他者を認めつつ、それらと協働していく力が必要。性別、年齢、個性、価値観等の多様な人材の活用が進む産業界においても求められており、既存の社会に参画し、適応しつつ、必要であれば自ら新たな社会を創造・構築していくことが、変化の激しい今日においては必要。また、人や社会とのかかわりの中で、自分に必要な知識や技能、能力を身に付けるなど、自らの育成にも影響。

## 具体例

他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ、労働に関する義務の履行、権利の適正な行使 など

# 自己理解・自己管理能力

## 内容案

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自己の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の自らの成長のために進んで学ぼうとする力

## 趣旨

子どもたちや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中で求められている、「やればできる」と考えて行動できる力。また、多様な他者との協力や協働が求められる今日、自らの思考や感情を律する力も必要。更に、変化の激しい社会にあって、自らを研鑽する力はますます重要。これらの能力は、キャリア形成や人間関係形成における基盤ともなるものであり、とりわけ自己理解能力は、生涯にわたるキャリア形成の過程で常に深めていく必要がある力。

## 具体例

他者と自己の違いの理解、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスコントロール、主体的行動 など



# 課題対応能力

## 内容案

**課題を発見・分析し、適切な計画を立てて実行することができる力**

## 趣旨

自らがやるべきことに意欲的に取り組む上で必要な能力。また、知識基盤社会、グローバル化などを踏まえ、従来の考え方や方法などにとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力。

## 具体例

情報収集、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など

# キャリアプランニング能力

## 内容案

「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて位置付け、キャリアに関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

## 趣旨

社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力。これを育成することで、核となって勤労観、職業観の確立につながる能力。「プランニング」は、単なる計画の立案や設計だけでなく、それを実行し、場合によっては修正しながら実現していくことを含意。

## 具体例

自己の能力・動機・価値観の統合、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、必要な情報の収集とその活用、将来設計、選択、行動と改善など

# 10. 「生きる力」「学士力」との関係

- 中央教育審議会では、これまで、「『知識基盤社会』の時代を担う子どもたちに必要な力」として「生きる力」を、「学士課程の各専攻分野を通じて培う力」として「学士力」を、それぞれ提言。
- 今回検討している「基礎的・汎用的能力」は、「働くこと」、特に「仕事に就くこと」に焦点を当てた能力であるため、「生きる力」や「学士力」とは基本的に視点が異なっているものの、社会生活や職業生活に必要な力を示しているという点では共通の方向を目指すものと考えられる。

## 「生きる力」（平成20年1月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」）

- 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力 など

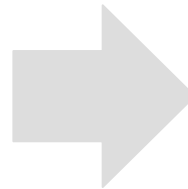
## 「学士力」（平成20年12月中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」）

- 知識・理解
- 汎用的技能
- 態度・志向性
- 統合的な学習経験と創造的思考力

# 11. 各教育段階に即した能力育成について(案)

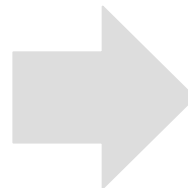
- これまでの能力の整理を踏まえて、各教育段階でどのように能力を育成していくのか考えると、概括的には次のように整理できるのではないか。

義務教育段階



主に、基礎的・汎用的能力の育成

後期中等教育段階  
高等教育段階



主に、基礎的・汎用的能力及び専門的能力の育成※

- ※ ただし、後期中等教育段階・高等教育段階における「専門的能力の育成」については、必ずしも特定の職業を遂行するために必要な能力をすべての学校や分野で行っているものではないことに留意が必要。